



博物館前のアメリカ軍の戦車

ベトナム戦争（下）



日本よりも領土の狭いベトナム。国内だけでの戦争だったにもかかわらず、ベトナム戦争は世界中に大きな影響を与えた。それは大國、アメリカが戦争に直接介入したことによるからだ。

ベトナム共産党を結成したホー・チ・ミンは第二次世界大戦直後の一九四五年九月、ベトナム民主共和国の独立を宣言した。しかしベトナムの植民地支配を続けたいフランスはこれを認めず戦争となった。いわゆる第一次インドシナ戦争である。八年間の戦いを経て一九五四年、ジュネーブ協定によってベトナム

は南北に分断された。第一次インドシナ戦争中の一九五〇年には朝鮮戦争が勃発、東西が激しく対立し、冷戦といわれた時代である。

一九六〇年、ベトナム戦争が勃発、別名、第二次インドシナ戦争と呼ばれる。ベトナムの共産化を恐れるアメリカは南ベトナムを支援、一方、北ベトナムはソ連、中国が支援した。



展示されていた日本の政党のポスター

一九六四年、アメリカは北ベトナム爆撃に踏み切る。ベトナム戦争は民族紛争ではなく、アメリカと北ベトナムの戦いになった。これによりアメリカは国際世論を敵にまわす。

ベトナム戦争が日本に特に関係深いのは、北爆抗議運動と沖縄返還運動がオーバードラップして展開されたからではあるまいか。アメリカ国内でも反戦デモや徴兵拒否が起こり、

反戦フォークソングも流行した。ホーチミン市にある戦争証跡博物館には日本の政党のポスターも展示してあった。私が一番引きつけられたのは枯れ葉剤によるものとされる奇形児の写真である。

ベトナム訪問前、日本にもなじみ深いドクちゃんに双子の赤ちゃんが誕生したというニュースが流れた。

枯れ葉剤による奇形障害や脳障害などの特異症状を訴える人は三百万人を超えるという。

私の二十歳から三十五歳までの若き日々にあったベトナム戦争。当時、組合役員をしており、反戦デモや沖縄返還運動などに参加し、身近

な戦争だった。戦争しか連想できなかったベトナムを訪れてみると、共産化されたとはいえず平和で活気にあふれた、日本の昭和三十年代を思わせる魅力的な国である。何といっても平和が一番だ。

ベトナム戦争で戦死した人はアメリカ、南ベトナム側が二十三万余。北ベトナム側は九十八万余と言われる。この人たちの死を無駄にしないためにも、戦争の事実を語り継がなくてはならない。

（元山口放送取締役ラジオ局長）



たくさんの奇形児の写真があった